

ELECTRIC SCOOTER

- OWNERS MANUAL - 取扱説明書

A4000i



- ★この取扱説明書では、電動バイクの取り扱い方法・安全な運転の方法・簡単な点検の方法などについて説明しております。
- ★車両の取り扱いに慣れていらっしゃる方も、電動バイク特有の装備や取扱い方法がありますので、運転する前に必ずこの取扱説明書をお読み下さい。
- ★電動バイクを譲渡される際には必ずこの取扱説明書をお渡し下さい。
- ★電動バイクの仕様は予告無く変更する場合がございます
- ★取扱説明書は常時大切に保管して下さい。



TSUBAMEE-TIME

はじめに

この度は TSUBAME E-TIME 製 Electric Scooter (電動バイク) をお買い上げいただき誠にありがとうございます。正しい取扱いをご理解頂くために電動バイクを操作する前に必ず本書をお読みください。まずはバッテリーを満充電になるまで充電してください。充電をしながらこの取扱説明書を最後までお読みください。この取扱説明書にはお客様の安全に関わる重要な情報が記載されています。取扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますのでお気をつけください。

★本製品 (電動バイク・A4000i) を一般公道で運転するには運転免許: 小型二輪 AT 限定以上が必要です。ご自身の免許で運転できるか確認して下さい。この電動バイクは小型自動二輪車です。この電動バイクの乗車定員は運転者を含め2人以下です。不明な点がありましたら、ツバメ・イータイム取扱店まで、お問合せ下さい。

★バッテリーのコネクター部分は⊕極と⊖極を有する電極のため、濡れた手や金属類で触れるのは非常に危険であり、ショートや事故の発生原因となります。

★ご自身でのパーツ分解や修理などは行わないでください。修理が必要な際には TSUBAME E-TIME 販売店へご相談ください。この電動バイクは水面下走行はできません。後輪の電子機器付近や車体内部の電子部品が浸水した場合はショートが起きたり電子機器の損傷が発生する可能性がありますのでお気を付けください。

★リチウムイオンバッテリーは極稀に初期不良を起こす場合があります。走行中いきなり停止してしまうケースもあり非常に危険です。総走行距離約100kmまでは充分に気をつけて走行して下さい。不具合等が発見された場合には直ちに走行をやめて TSUBAME E-TIME 販売店までご連絡ください。

⚠ 警告

このマニュアルには、電動バイクの点検を怠った場合に生じてしまう問題に関する多数の⚠ 警告印が記載されています。⚠ 警告印の指示に従わなかった場合には電動バイクの制御不能から生じる怪我や事故が発生する可能性があります。転倒事故は怪我や死亡につながる事が多いため、十分にお気を付け下さい。

⚠ 注意

⚠ 注意印は、マニュアルの指示に従わなかった場合には電動バイクや部品が損傷してしまうことを記述しています。

⚠ 警告

電動バイクは以下のような場合には使用してはいけません。

1. 歩道や歩行者専用道路
2. でこぼこ、あるいは舗装されていない道路
3. 暗所での無灯
4. 砂だらけ、あるいは砂利だらけの道
5. 体重 150kg 以上のように大柄な人
6. 股下の長さが 55cm 以下の人
7. 身体あるいは知的障害を抱えた人
8. 視覚、バランス、聴覚、運動協調性障害を抱えた人
9. ヘッドフォンあるいは携帯電話を使用中の (交通音や緊急車両のサイレンなどが覆われてしまったため、これらの製品のコードなどが電動バイクの可動部分に絡まってしまうことがあるため)
10. シート下トランクに 4kg 以上の物を積載すること
11. サングラス、ヒール、つま先の開いた靴、着脱容易な履物の人
12. アルコール、または運転手の電動バイク運転能力に影響してしまう薬物を摂取した人
13. ハンドルを両手で持っていない場合
14. シートに座っていない場合
15. 斜面などのジャンプ、スタント的な運転を行う場合
16. 地形や状況に合っていない速度や運転方法、駆動部分に近接した衣服などを着ている場合
17. 無免許をはじめ、自身の能力や経験が 2 輪車操縦に習熟していないと見なされる場合

INDEX

1. 安全にお乗りいただくために (必ずお読みください).....	3
2. A4000i の特徴	5
3. 製品仕様	6
4. 各部の名称	7
5. 各部の取扱いと操作	8
6. スマートフォンとの連携	11
7. バッテリー	14
8. 車両の点検	17
9. 運転操作	21
10. メンテナンスノート	24


※仕様変更等によりこの取扱説明書の内容と車両が一致しない場合があります。予め御了承下さい。
株式会社TSUBAME E-TIME および TSUBAME E-TIME 販売店は、使用者が法令に従わなかった場合に生じた問題については一切の責を負わないものと致します。

1. 安全にお乗りいただくために 「心のゆとりと正しい服装が安全運転の決め手です。 焦らずにゆとりを持って落ち着いた運転を心がけましょう。」

◆安全運転は正しい服装から

- ①ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットはSまたはSG、JISマークのある二輪専用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめてください。
- ②グローブを必ず着用してください。グローブは、2輪乗車用のものが適しています。
- ③ヘルメットにシールドを着用することをお勧めします。着用できないときは、バイク用のサングラスやゴーグルを使用してください。また、夜間や夕方など、暗いときの走行では濃い色のシールドやサングラス等の装着はおやめ下さい。
- ④運転する服装は動きやすく、身体の露出が少ない長袖/長ズボン着用してください。万一の転倒時には身体を保護します。
- ⑤ズボンのすそや袖口の広い服は、運転操作の邪魔になり思わぬ事故の原因となる可能性があるため避けて下さい。
- ⑥靴はかかたが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にぴったり合うものを選んでください。

警告 ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

 **日常点検、定期点検整備を必ず行う** 事故や故障を防ぐため、法令に準じた日常点検を運転する前に行ってください。また、法令に準じた1年、2年ごとの定期点検（【8章：点検】と整備【メンテナンスノート】をご参照ください。）も必ず実施してください。

◆車の異常

異音がしたり、異臭や異常な振動がある場合は、車両が故障している恐れがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故に繋がる恐れがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

◆乗車定員は2人以下

運転者以外に2人以上を乗せる事は道路交通法によって禁じられています。

◆法定最高速度は60km/時以下

本車両で60km/時以上のスピードを出すことは道路交通法によって禁じられております。

◆冠水した道路を走行しない

冠水した道路を走行すると、モーターが停止したり、漏電やショートなどの故障の原因となります。冠水した道路を走行し、水に浸ってしまった時は、TSUBAME E-TIME販売店で点検・整備を受けてください。

◆荷物はしっかり固定する

- ①重い荷物を積むと、積まない時に比べて操縦安定性が低下します。荷物を積みすぎると、ハンドルが振られ運転を誤る事が御座います。積みすぎないように注意してください。
- ②ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作が出来なくなる場合が有りますので物を置かないで下さい。
- ③ヘッドライトレンズの前を荷物等で遮らないようにして下さい。過熱によりレンズが溶けたり、荷物が損傷する場合があります。
- ④石や鉄片など、硬くて重い物をメットインボックスに入れたまま走行しないで下さい。積載重量内であっても振動により、メットインボックス本体や車体が損傷する場合があります。
- ⑤荷物は指定の場所以外には積まないようにして下さい。
- ⑥荷物の積載は下記重量までとなります。
 - ・フロントポケット&ホック：1.5kg
 - ・メットインボックス：2～3kg
 - ・リアキャリア：4.5kg

◆両手はハンドル、両足はステップボード（マット）

運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をステップボード（マット）にのせます。

◆押して移動するときはメインスイッチをOFFにする

車両から降りて押して移動する際は、急発進を避けるため、必ずメインスイッチをオフして下さい。

◆走行中に携帯電話は使用はしない

携帯電話をご利用の際は、安全な場所に停止してから使用して下さい。

◆急激なスロットルの開閉操作はしない

事故や故障の原因となるので、スタンドを立てた状態でスロットルを回さないで下さい。

◆急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は横滑りや転倒の原因となります。絶対におやめください。

◆むやみに部品の取り外しはしない

むやみに部品の取り外しはしないでください。事故や故障の原因となることがあります。



注意 部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へご連絡下さい。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

◆違法改造はしない

- ①車両の構造や機能に関わる改造は、操縦性を悪化させたり、車両の耐用年数を縮めることがあります。
 - ②不正改造を行うと、お客様の安全を脅かしたり、他の方のご迷惑となりますのでおやめください。
- ※このような改造に起因する故障は保証修理の対象外となります。

◆自賠責保険に必ず加入

自賠責保険に加入することは法令で定められていますので必ず加入してください。また、保険の期限切れにも注意してください。任意の自動車保険への加入もお勧め致します。

◆ナンバープレートを必ず装着

本車両は第二種原動機付自転車ですので、公道を走行するにはナンバープレートが必要です。

◆駐車

- ①盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- ②地面が水平でしっかりした場所に駐車して下さい。
- ③交通の邪魔にならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- ④やむを得ず傾斜地や砂利等を敷いた所、でこぼこ所、地面の軟らかい所等に駐車せざるを得ない時は、車両の転倒・動き出しの無いよう、安全に十分留意して下さい。



警告 走行直後はモーターやブレーキ関係の部品に直接触れないでください。高温になっていて、ヤケドをするおそれがあります。

◆周囲の人への思いやり

- ①交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- ②周囲の状況に注意して安全なスピードで走行して下さい。
- ③歩行者や自転車のそばを通る時は安全な距離を保ち、速度を落として運転して下さい。

◆昼間はヘッドライトを下向きに

本車両は法規に基づき、ヘッドライトが常時点灯となっております。他の車両や歩行者に注意を促すためです。また、対向車がまぶしくないように、ライトは通常下向きにして下さい。

◆環境への配慮

車両及び部品などの廃棄をする時、地球環境を守る為に、使用済みのバッテリーやタイヤ等はむやみに捨てないようにして下さい。これらの物を廃棄する場合、ツバメ・イータム取扱店にご相談下さい。また、将来車両の廃棄を希望する際にも、お近くのツバメ・イータム取扱店にご相談下さい。



2. A4000i の特徴

◆主な特徴について

- ① A4000i は電池とモーターで走るため、ガソリンやエンジンオイルの補給が必要ありません。
- ② 充電は、ご家庭の 100V コンセントにつなぎ、専用の充電器を使って充電して頂けます。
- ③ 従来の電動バイクと異なり、A4000i のバッテリーは持ち運びが可能です。運搬の際には充分にご注意下さい。
- ④ オリジナル開発となる新型バッテリーは、長寿命と高容量を実現しています。
- ⑤ 世界で初めてとなるスマートフォンと連動する機能を有しています。お手持ちの iPhone によって走行データの記録などの情報をクラウドサーバーに上げることが出来ます。(iPhone シリーズのみの対応となります [2014 年 10 月現在。])

◆BOOST モード搭載

A4000i は、道路状況に応じ、モーターの出力数を選択することができます。普段は「通常モード」で走行し、スピードを出したい場合や坂の多い道等では、「BOOST モード」で走行して頂くなど、状況に応じて走行を楽しんで頂く事が可能です。

<モードの切り替え方法>

「通常モード」と「BOOST モード」は、右ハンドル下の【BOOST】ボタンを押し続けて頂くことで切り替えができます(ボタンを押し続けている間は「BOOST モード」となります)。



「BOOST モード」使用中は電気消費量が大きくなります。モーターの負荷が増し、航続距離の短化を招きます。必要時以外はご使用を控えてください。また、ボタンを押すときはアクセルの開閉などご注意ください、安全運転にご留意ください。



BOOST ボタン

◆発進時の諸注意

A4000i は停車時の誤発進を防ぐため、サイドスタンドをあげないとアクセルがかかりません。発進時は下記の手順を参考にして、発進を行ってください。

- ① 後ろから車・自転車・歩行者等が来ていないか、右後方確認を行います。
- ② バイクにまたがり、左右のハンドルを保持し、バイクを支えます。
- ③ メインスイッチキー差し込み ON に回し、電源をいれます。
- ④ サイドスタンドのガイドバーを使いサイドスタンドを上げます。
- ⑤ 前方、左右、後方の交通状況の確認を行います。
- ⑥ 安全が確認できたら、視野を広く持ち、確実なハンドル操作を心がけて、力まずにスロットルをゆっくり回し発進させます。



サイドスタンド

3. 製品仕様

項目	諸元
全幅 x 全長 x 全高	1793 x 750 x 1275(各 mm)
ホイールベース	1280mm
シート高	750mm
最低地上高	110mm
キャスト角	25°
トレール	52.9mm
車両重量	118 kg
乗車定員	2名
航続距離	60km ※1
最高時速	60km/h ※2
モーター定格出力	1000 W 未満
バッテリー	リチウムイオン バッテリー(脱着式)
バッテリースペック	48V40Ah(三元素リチウム)
充電時間(0~100%)	約 4.5 時間
バッテリー保証	一年 ※3
フロントタイヤ	120/70-12 インチ
リヤタイヤ	130/60-13 インチ
フロントブレーキ	油圧 190mm ディスクブレーキ(2ピストンキャリパー)
リヤブレーキ	油圧 220mm ディスクブレーキ(1ピストンキャリパー)
スマートフォン対応機種	i-PHONE 4 / 4S / 5 / 5C / 5S ※4

※1: 30km/h 定地走行時のデータになります(弊社測定値)。1 充電の走行距離は気象、道路、車両、運転、整備などの諸条件により異なります。

※2: ブーストボタン使用時の最高速度になります。通常の走行時の最高速度は約 52km/h になります。

※3: バッテリーの保証は、標識登録日(または納車日)から 1 年となります。

※4: iPhone 以外のスマートフォンには対応していません。また、走行時の iPhone の故障などについては一切の責任を負いません。

製品の諸元や仕様は、改良や性能向上のため、予告なく変更する場合がございます。

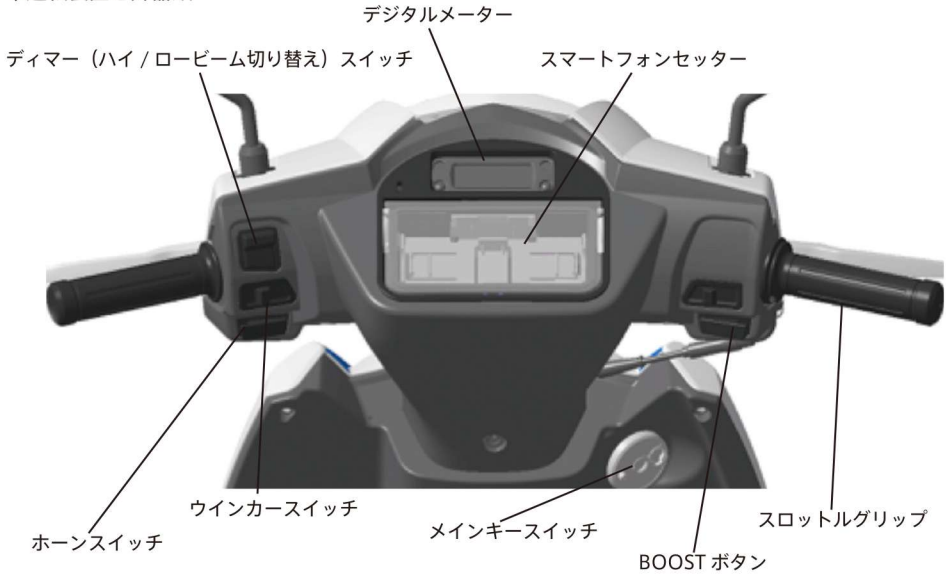
4. 各部の名称



----- は見えない箇所を表しています。

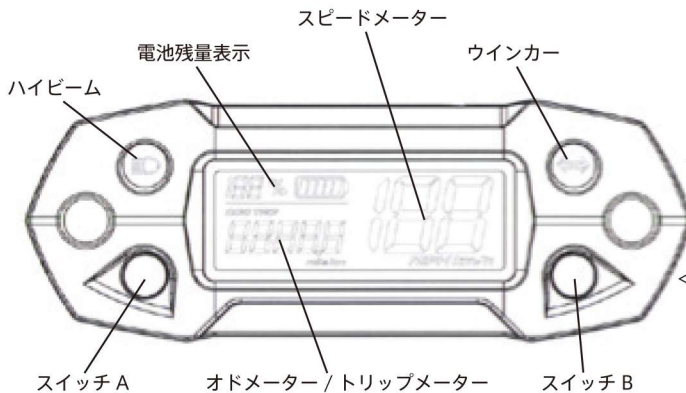
5. 各部の取扱いと操作

◆運転装置と計器類



各種スイッチ	マーク	働き
モーターブースト	BOOST	ボタンを押すとモーターパワーが20%増加します。10秒間ご使用可能で、推奨時間は5秒未満です。
ホーン		自分の周りに存在を知らせます。スイッチを押すと鳴り、離すと止まります。
ウインカー		右左折や進路変更を行う際に、スイッチをスライドさせて点滅させます。スイッチを真ん中に押せばキャンセルされます。
ハイ/ロービーム		ハイビーム。遠くを照らします。 ロービーム。近くを照らします。

◆デジタルメーター



<総走行距離とトリップメーターの切り替え>

電源を入れると、総走行距離が表示されます。総走行距離が表示されている際に、スイッチ A を3秒以上押すと、トリップメーターに切り替わります。また、トリップメーターが表示されている際に、スイッチ A を3秒以上押すと総走行距離の表示に切り替わります。

<トリップメーターのクリア方法>

トリップメーターの表示時に、スイッチ B を3秒以上押すと、トリップメーターがクリアされます。

<メーター表示の変更方法>

km/h が表示されている際に、スイッチ B を3秒以上押すと、MPH の表示に切り替わります。また、MPH が表示されている際に、スイッチ B を3秒以上押すと、km/h の表示に切り替わります。

◆メインキー

<キーの取扱いについて>

キーは車両の操作や保管をするときなどに使用する大切なものですので、紛失しないように充分注意し、付属している2本のキーのうち1本は予備として大切に保管して下さい。

盗難予防のため、車両から離れるときは必ずハンドルロックをかけキーをお持ち下さい。

1本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーご作成下さい。

⚠ 注意 金属製のキーホルダーをつけるとう車体を傷つける恐れがあります。また大きく重いキーホルダーは運転操作の妨げとなる場合がございます。

◆メインスイッチ



メインスイッチキーを差し込み

「LOCK」⇒「OFF」⇒「ON」の方向へ回します。「ON」：電源が入り、サイドスタンドを上げると走行可能となります。「OFF」：電源が切れます。

⚠ 警告 走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故に繋がる恐れがあります。メインスイッチは必ず、停車中に操作してください。

◆ハンドルロック



1. ハンドルバーを反時計回りに最後まで回します。

2. 鍵をステアリングロックに入れて、押して「LOCK」まで回します。

3. ハンドルがロックされているのを確認して鍵を抜いて下さい。

⚠ 注意 盗難防止のため、車両から離れる時は必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

◆シートの開け方



鍵穴に鍵を入れ、反時計周りにカチっというまで回します。

◆鍵穴シャッター



「閉める」：左のボタンを押す。

「開ける」：鍵のふちを右側の鍵穴に、差し込み時計周りに回してください。

<閉めるには押す> <鍵を使い開ける>

◆スロットルとブレーキ

<スロットルグリップ>



静かに手前に回すとスタートします。

グリップの回し加減で速度を調節します。

グリップを戻すと速度が遅くなります。

急激なスロットルの開閉操作は故障の原因となります。

⚠ 注意 サイドスタンドを掛けた状態ではスロットルを回してもモーターは動きません。

<ブレーキ>

スロットルグリップを戻してから、ブレーキレバーを握ると停止します。
制動力を効果的に得るためには、前後ブレーキを同時に使用すると効果的です。
“はじめやんわり、あと強く”がブレーキの上手なかけかたです。

⚠ 注意 前輪ブレーキは強く効きますが操作には慎重を要します。後輪ブレーキは操作は楽ですが、十分な制動効果が得られない場合があります。前後ブレーキを併用して安全な走行を心がけてください。

◆シート下スペース



<シートの開け方>

メインキーにて開けられます。詳しくは、P9のシートの開け方をご参照下さい。

<メットインボックス>

ハーフサイズのヘルメットはシート下に収納可能です。
ジェットヘルメットやフルフェイスのヘルメットは付属のヘルメットホルダーにあごひもをかけてご利用頂けます。

⚠ 警告 ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車両に損害を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え、保護機能を低下させます。

<荷物は指定の場所以外には積まないようにして下さい>

積載重量内でもメットインボックス本体や車体が損傷する場合があります。
荷物の積載は下記重量までです。

- ・フロントポケット&フック：1.5kg
- ・メットインボックス：2～3kg
- ・リアキャリア：4.5kg

6. スマートフォンとの連携

A4000iには電動バイク世界初となるスマートフォンと本機の連携機能が搭載されております。使用方法をご確認の上、ご活用下さい。(対応機種：iPhone4/4S/5/5C/5S ※2014年9月現在 ©Apple inc.)

◆基本説明



A



B

C

<スマートフォンセッター カバーの開閉方法>

初めに、メイン電源を落としてください。Aの部分を押しすとカバーは開き、もう一度押しすと閉まります。

< iPhone の取り付けと取り外し方法>

「取り付け」：iPhone をフック B 側から差し込む様に取り付けて下さい。

「取り外し」：フック C を押してください。

<スマートフォンセッター カバーのロックと解除>

盗難防止のために、主電源を ON にするとカバーがロックされます。主電源を OFF にするとロックは解除されます。

<非常事態時のロック解除方法>

非常時には強制的にカバーのロックを解除することができます。

「解除方法」：穴に鍵を挿入し右側に回す



⚠ 注意

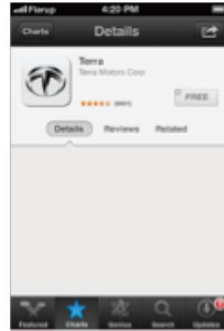
iPhone はカバーやプロテクターを外して車体に装着して下さい。また、走行時の iPhone の故障などについては一切の責任を負いません。

◆専用アプリケーション

<アプリケーションのインストール>

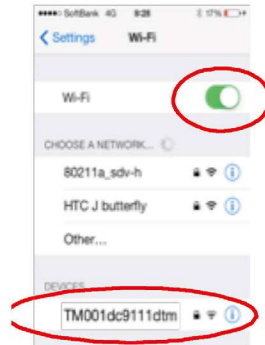
App Store から A4000i 専用アプリケーションをダウンロード/インストールしてください。

検索 : Terra Drive

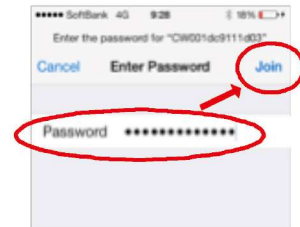


<電動バイクとiPhoneの接続>

- ① バイクの電源を ON にします。
- ② iPhone で、「設定」>「Wi-Fi」を開きます。
- ③ 「Wi-Fi」の項目を ON にします。
- ④ 「DEVICES」に表示されている電動バイクの TM から始まる英数字 (SSID) をタップします。



- ⑤ ダイアログが表示されるので、「Join Anyway」をタップします。
- ⑥ パスワードの入力画面が表示されます。「0123456789012」(全て半角数字) と入力し、「接続 (Join)」をタップします。



- ⑦ 「自動接続 (Auto-Join)」の項目を ON にします。
- ⑧ 「IP ADDRESS」の項目で「静的 (Static)」を選択します。
- ⑨ 「IP Address」の項目に「192.168.204.200」と入力します。
- ⑩ 「Subnet Mask」の項目に「255.255.255.0」と入力します。



以上で、電動バイクと iPhone の接続は完了です。

◆アプリケーションの使い方

- ①バイクの電源を「オン」にして、アプリケーションのアイコンをタップすると、アプリケーションが起動します。



- ②数秒で、電動バイクとiPhoneが接続されます。接続されたら自動的にバッテリー残量が表示されます。



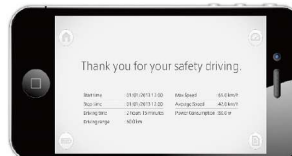
- ③電動バイクを走行させる（速度を検知すると）、自動的に電力消費量の画面に切り替わります。



- ④ ②もしくは③の画面で右下のボタンをタップすると、電動バイクから受信している全データを表示します。



- ⑤電動バイクの電源を OFF にすると、自動的に右の画面に切り替わり、電動バイクと iPhone の接続が終了します。iPhone のホームボタンを押すとアプリケーションが終了します



7. バッテリー

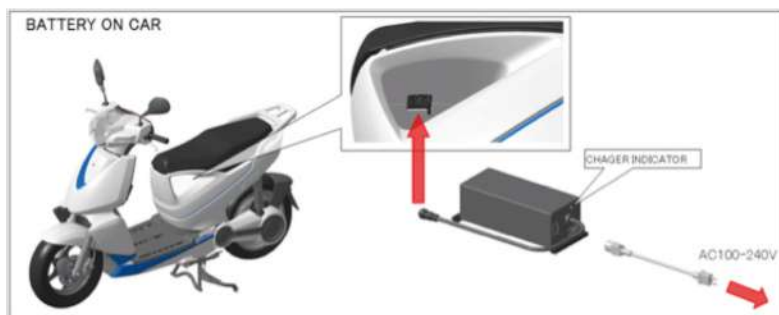
A4000i が搭載するバッテリーは、車体から取り外して持ち運びが可能です。駐車場に充電設備のないマンションにお住まいの方でもご家庭の 100V コンセントで安心して充電して頂けます。



バッテリーパック

◆バッテリーの充電

<バッテリーを車体に積んで充電する場合>



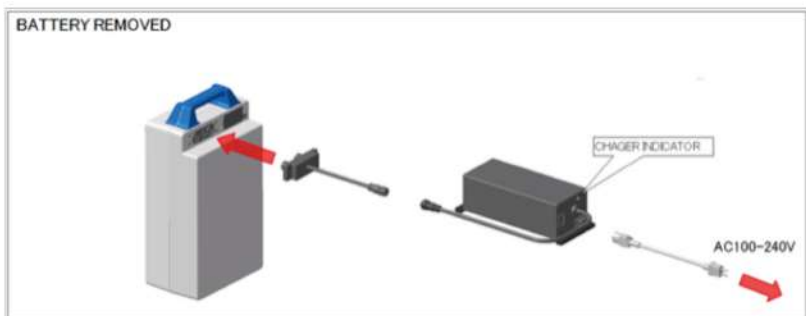
1. 充電器の車体のメインスイッチを OFF あるいは、LOOK にします。
2. 充電器の充電プラグを車体の充電器差込口にしっかり奥まで差しこみます。
3. 電源プラグを充電器に差しコンセントプラグを家庭用の AC100V コンセントに差し込んで下さい。
4. 充電器側面についている電源スイッチを ON (一) にします。電源ランプが「赤」、充電が開始されると充電ランプが「灯色」に点灯します。
5. 充電が完了すると充電機能は自動的に停止し、充電ランプが「緑」に変わります。

警告 15 時間以上充電しても充電ランプが緑色にならない場合は充電を止めて、ツバ・イータム取扱店までご連絡ください。

6. 充電が完了したら、充電器の電源スイッチを【OFF】にし、コンセントプラグから抜きます。
7. 充電器の充電プラグを差し込み口から抜きます。

注意 必ず AC100V の方を抜いてから本体側プラグを抜いて下さい。
コンセントを抜いてもしばらくランプが点灯している場合がありますが故障ではございません。

<バッテリーを車体から取り外して充電する場合>



1. 充電器の充電プラグを充電器差込口にしっかり奥まで差しこみます。
2. 電源プラグを充電器に差しコンセントプラグを家庭用の AC100V コンセントに差し込んで下さい。
3. 充電器側面についている電源スイッチを ON (一) にします。電源ランプが「赤」、充電が開始されると充電ランプが「黄色」に点灯します。
4. 充電が完了すると充電機能は自動的に停止し、充電ランプが「緑」に変わります。

警告 15 時間以上充電しても充電ランプが緑色にならない場合は充電を止めて、ツバメ・イ・タイム取扱店までご連絡ください。

5. 充電が完了したら、充電器の電源スイッチを【OFF】にし、コンセントプラグから抜きます。
6. 充電器の充電プラグを差し込み口から抜きます。

注意 必ず AC100V の方を抜いてから本体側プラグを抜いて下さい。コンセントを抜いてもしばらくランプが点灯している場合がありますが故障ではございません。

<充電終了時のご注意>

1. 使用後は安全のため、コンセントからコンセントプラグを抜いて保管して下さい。
2. 充電終了後は、充電器を屋外へ放置しないで下さい。
3. プラグ類を抜く時は、コードを引っ張らずにプラグをしっかり持って抜いて下さい。又、プラグの抜く順序は AC100V の方を抜いてから充電プラグを抜いて下さい。
4. バッテリーは電源スイッチ「OFF」の状態でも、多少の自己放電していますので、未使用の状態でも 2 ヶ月に 1 ~ 2 回充電を行い、過度な放電を防いで下さい。
5. 充電器をシートの中に入れてままの走行はお止めください。故障の原因となります。

◆充電器の表示

表示	状態
黄色の点滅	充電前
黄色の点灯	高速充電モード
青色の点滅	CV モード
黄色の点滅	トリクル充電モード
青色の点灯	充電完了
赤色の点滅	充電できていません

◆バッテリー残量の目安

状態	表示	電池の状態
80~100%		充電不要
60~80%		充電可
40~60%		充電推奨
20~40%		充電推奨大
0~20%		要充電
0%		要充電 (危険)

◆充電頻度について

1. 充電前にバッテリーを使い切る必要はございません。
2. 使用年月や使用条件により徐々に放電容量が低下します。
3. 外気温により性能が変化することがあります。低温時は常温時に比べて、一充電あたりの走行距離が短くなり、また充電時間が長くなります。低温時は常温時に比べて放電容量が低下し、一充電あたりの走行距離が短くなりますが故障ではありません。
4. 使用しなくても徐々に放電し、バッテリー残量が減っていきます。

◆バッテリー全般に関する諸注意

- ・バッテリーパックを分解や、力を加えて開けないでください。バッテリーパックに損傷を与えると、安全装置が作動し、熱や発火、破裂の原因となります。
- ・バッテリーパックを熱や火、直射日光に晒さないでください。また暑い車内での使用や放置はしないでください。
- ・バッテリーパックを針などで穴を空けたり、刺したりしないでください。
- ・バッテリーパックを水や腐食性の液体に晒さないでください。
- ・バッテリーは漏電に気をつけてください。いくつかのバッテリーを一箱に保管すると漏電の恐れがありますので分けて保管するようにしてください。プラス極とマイナス極を反対にして放電させないようにしてください。また、充電器は指定の物をお使いください。
- ・充電器は付属の物をお使いください。指定外の充電器のご使用はお控えください。
- ・小さなお子様をバッテリーに近づけないでください。
- ・バッテリーは清潔に、また乾燥した状態でご使用ください。バッテリーコネクションが汚れている場合は、乾燥したきれいなタオルで汚れを落としてください。
- ・長期間バッテリーを使用しなかった場合、再充電の際はTSUBAME E-TIME 販売店にご相談ください。
- ・商品情報は後々のため保管ください。
- ・バッテリーパックの脱着等は指定された方法でのみご使用ください。
- ・車体を長期（6ヶ月以上）使用しない際は、バッテリーを取外しの上保管下さい。
- ・バッテリーパックは重量物です。運搬の際など取り扱いには慎重に行ってください。
- ・バッテリーパックは使用の有無に関わらず、最低1ヶ月に一度は充電してください。

◆バッテリー充電時の諸注意

- ・心臓ペースメーカーや、除細動器等の医療用電気機器を使用している方は、医師や医療用電気機器製造業者などに充電による影響の有無を確認してから充電を行ってください。
- ・いつもと違う臭いがしたり、車体から煙が出ているときは、すぐに充電を中止してください。
- ・幼児や、ペットなどの動物がいたずらするところでは充電しないでください。予想外の行動により、危害を受けたり火災になるおそれがあります。
- ・充電プラグ、充電コード、漏電遮断器に接続されたアース付きコンセントに損傷、腐食があるとき、または接続部にゆるみがあるときは充電を行わないでください。火災、感電、ショートの原因となります。
- ・雨や水に濡れるところでは充電しないでください。
- ・充電コードや充電プラグを改造しないでください。
- ・ボディーカバーをかけた状態で充電しないでください。濡れた手で充電プラグの抜き差しをしないでください。
- ・落雷のおそれがある場合は、充電をしないでください。
- ・充電コード充電プラグをストーブなどの暖房器具に近づけないでください。
- ・充電コード充電プラグを落としたり、強い衝撃を与えないでください。

8. 車両の点検

車両を快適に使用し、事故を未然に防ぐため、法令に準じて日常点検と定期点検を必ず実施してください。

日常点検

車両を使用する人が、1日1回運転の前に実施する点検です。
この車両に適用される日常点検の項目は以下をご覧ください。

定期点検

車両を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。
ご自身でできない整備につきましては、TSUBAME E-TIME 販売店までご相談ください。



警告

日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
異常が認められた時は、乗車前にご使用の方ご自身でまたは、販売店で必ず整備を行ってください。

◆日常点検項目

点検箇所	点検内容
ブレーキ	きき具合
	ブレーキ液の量
タイヤ	空気圧
	亀裂、損傷、異物、異常摩耗
	溝の深さ（※）
モーター	異音
	低速、加速の状態
スロットルグリップ	動作確認
メーター	動作確認
メインスイッチ	動作確認
灯火装置、方向指示器、ブザー類	ヘッドライト、ウinkerランプ、ストップ/テールライト、ホーン
バックミラー	汚れ、範囲確認
ハンドル	動作確認、緩み、ガタ
前後ホイール軸	ナット緩み、特に後方車軸ナットは定期的を確認すること
リアスイングアーム	ナット緩み
メインスタンド、サイドスタンド	ボルト緩み
その他、運行において異常が認められた箇所	

※印の点検は、お車の走行距離・状態などから判断して適切な時期に行ってください。（長距離走行の前、洗車時、充電時など）

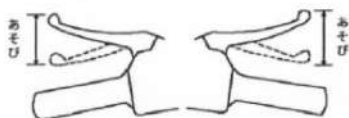


安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はTSUBAME E-TIME 販売店にご依頼ください。点検・整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- ①点検・整備をするときは、充電プラグをコンセントに差し込まないでください。感電やショートにつながる場合があります。
- ②走行直後は、モーターなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- ③走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
- ④濡れた手で充電器の電源プラグやバッテリーの接点部分にふれたりしないでください。感電するおそれがあり、大変危険です。

◆ブレーキレバーのあそびの点検

- ①ブレーキのあそびの点検
ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバーの先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。
※あそびは 10mm ~ 20mm



- ②ブレーキのきき具合の点検
乾いた路面を走行し前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。ブレーキのきき具合が悪い時は、TSUBAME E-TIME 販売店で点検・整備を受けてください。
- ③ブレーキ液量の点検
フロントアッパーカウルを外し、平坦地で車体を垂直にし、ハンドルを直進状態にしてリザーバータンクの液面がロアレベルより上にあるか点検します。異常があるときは TSUBAME E-TIME 販売店にご相談ください。

◆タイヤの点検

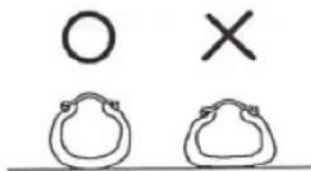
車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが必要です。常に適正な空気圧を保ってください。また、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは使用せず交換してください。



過度にすり減ったタイヤの使用や、不適切な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

①空気圧の点検

タイヤゲージで空気圧を測定するか、タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。タイヤの接地部のたわみ状態が異常な場合は、タイヤが冷えている状態でタイヤゲージを使用し、適正な空気圧に調整してください。
タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては、空気圧不足が見た目ではわかりづらいものもあるため、少なくとも一ヶ月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。走行後のタイヤが温まっている状態ではタイヤの空気圧は高くなる場合がありますので、必ず冷えた状態で調整してください。



タイヤ空気圧

前輪	200kPa(2.00kg/fcm ³)
後輪	250kPa(2.50kg/fcm ³)

②タイヤの亀裂と損傷の点検

タイヤの全周に亀裂や損傷および釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。道路の縁石等にタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越えたりしたときは、必ず点検してください。



③タイヤの異常な摩耗の点検

タイヤの接地面や側面が異常な摩耗していないかを点検します。



④タイヤの溝の深さの点検

溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ（スリップサイン）により確認します。ウェアインジケータがあらわれたら、ただちにタイヤを交換してください。タイヤに異常がある時は、販売店で点検・整備を受けてください。 ※溝の深さは前後とも 1.6mm 以上が望ましいです

⚠ 注意

- ・タイヤを交換する際は、必ず指定タイヤを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響を及ぼすおそれありますので、使用しないでください。
- ・過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となる場合があります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。
- ・タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたり、パンクの原因になります。異常がある時は、販売店で点検・整備を受けてください。

◆モーターの点検

①モーターの回転、異音の点検

メイスタンドを立てた状態でモーターを始動し後輪を空転させ、スムーズに回転するかを点検します。モーターから異音がないかを点検します。

②低速、加速の状態の点検

スロットルグリップを徐々に回してモーターを加速したとき、スロットルグリップもモーターもスムーズに回るかを走行などして点検します。異常がある時は、販売店で点検・整備を受けてください。

◆灯火装置及び方向指示灯の点検

①メインスイッチを入れます。

②ヘッドライト、テールランプが点灯するかを点検します。同時にヘッドライト上下切り替えスイッチが上向き、下向きに切り替わるかを点検します。

③前輪ブレーキバー、後輪ブレーキバーを別々に握り、ブレーキランプが点灯するかを点検します。

④方向指示器スイッチを操作し、前後左右の方向指示灯が点灯するかを点検します。

⑤レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

⚠ 注意

弊社指定の純正部品およびオプション部品装着以外の部品が起因する諸問題に関しては責任を負いませんので、予めご了承ください。

9. 運転操作

◆発進

A4000iはサイドスタンドをあげないとアクセルがかかりません。よって発進時は下記の手順を参考にして、発進を行ってください。

- ①後ろから車・自転車・歩行者等が来ていないか、右後方確認を行います。
- ②バイクにまたがり、左右のハンドルを保持し、バイクを支えます。
- ③メインスイッチキー差し込み ON に回し、電源をいれます。
- ④サイドスタンドのガイドバーを使いサイドスタンドを上げます。
- ⑤前方、左右、後方の交通状況の確認を行います。
- ⑥安全が確認できたら、視野を広く持ち、確実なハンドル操作を心がけて、力まずにスロットルをゆっくり回し発進させます。



警告

飛び出し防止のため、必ずリヤブレーキを作動させてください。
スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

◆加速と減速

速度は、スロットルを開けたり、閉めたりして調整します。速度を上げるには、スロットルグリップを親指側に回し、速度を落とすには親指と反対側に回します。

◆ブレーキ

- ①まず、スロットルを完全に閉じます。
- ②フロントブレーキとリヤブレーキを同時（一瞬、リアブレーキを早く）に徐々に絞り込むように握ります。



警告

- ・急なブレーキは避けてください（特に、どちらか一方に傾いている時など）。横滑りや転倒の原因になります。
- ・路面電車のレールやマンホールなどは濡れている時は特に滑りやすくなるので、減速して注意して走行してください。
- ・濡れた路面では、ブレーキが効きにくいことをご留意ください。
- ・下り坂でのブレーキ操作は平らなところより効きにくいので、下り坂にさしかかる前に充分減速してください。

◆駐車

駐車の際は盗難防止のため、必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、可能であればチェーンロックやサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。

8. 車両のお手入れ

◆お手入れの基本

車両を定期的に清掃することは、品質や性能を維持するために大切な作業です。すみずみまで清掃すれば普段見逃しがちな異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は車体の錆を促進します。海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行した後は、必ず洗車を行ってください。

◆洗車の仕方

雨天走行後など、車が汚れた時は早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。中性洗剤を使用して水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよく拭き取ります。傷の原因になりますので乾拭きはおやめください。また、スチーム洗車や水道ホースなどで車に直接圧力をかける洗車もおやめください。車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。

警告

- ・洗車はモーターが冷えている時にしてください。
- ・洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪い時は、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキを乾燥させてください。
- ・コントローラーやバッテリーなどの電装品には水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- ・コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部分を傷つけますので、使用しないでください。
- ・ヘッドライト、メーターパネル、サイドカバーなどのプラスチック部品にブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ひび割れなどの原因になりますので注意してください。

◆保管の仕方

車両はできるだけ、屋内にて保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

注意

- ・長時間お乗りにならない時は、以下のことを守ってください。
- ・保管する前にワックスがけをしてください。サビを防ぐ効果があります。
- ・バッテリーを取り外して、湿気のないすずしい場所に保管してください。また、1ヶ月ごとにバッテリーの補充電をしてください。
- ・長期間保管後の走行前には、バッテリーの充電、及び各部の点検をしてください。

10. メンテナンスノート（定期点検簿）

定期点検整備項目		6ヶ月	12ヶ月	メモ
		実施日 点検者 年 月 日	実施日 点検者 年 月 日	
タイヤ	タイヤの亀裂・損傷			
	タイヤの残溝・異常摩耗			
	空気バルブの損傷			
	空気圧の適正			
ブレーキ	ブレーキランプの点灯			
	ブレーキのきき具合			
	ブレーキパッドの摩耗・ブレーキフルードの量			
ホーン	作動確認			
	配線溶接点、絶縁			
バックミラー	角度、範囲、ねじ締め付け			
ヘッドライト、ウインカーランプ、テールライト	照射位置、角度、配線と絶縁			
メーター	メーター表示、配線			
ボルト、ナット類	締め付け確認			
スロットルコントロール	レバーの作動、戻り具合			
コントローラー	コネクター接続部の緩み、損傷			
	不足電圧、過電圧保護			
モーター	端蓋、ベアリング、ホール、信号線、モーター配線、モーターケース絶縁			
メイン配線束	損傷、接続部			

良好	✓	交換	×	締付	T	修理	△	分解	○	調整	A	清掃	C	給油	L
----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----	---

定期点検整備項目		6ヶ月	12ヶ月	メモ
		実施日 点検者 年 月 日	実施日 点検者 年 月 日	
前後ホイール	ボルト・ナット類の緩み			
	ホイールの損傷			
ハンドル	ハンドルの操作具合・緩み・がた			
	左右の操舵角度			
	ステアリングシャフトの取付 具合損傷			
	ステアリングシャフトの軸受 部のがた、ストッパーの損傷、 サビ			
フレーム、リヤスイング アーム	各溶接点、ナット締め付け			
フロントフォーク	ボルト、ナット類、ベアリン グ			
サスペンション	サスペンションの作動具合			
	ボルト・ナット類の緩み			
	ホイールの損傷			
バッテリー	ターミナルの締め付け、腐食			
	コネクタ-接続部のがた・損 傷			
	充電機能			
充電器	コネクタ-接続部のがた・損 傷			
	ランプの点灯			
その他 (必要な箇所が認められた場合に記入)				

定期点検整備項目		18ヶ月	24ヶ月	メモ
		実施日 点検者	実施日 点検者	
タイヤ	タイヤの亀裂・損傷			
	タイヤの残溝・異常摩耗			
	空気バルブの損傷			
	空気圧の適正			
ブレーキ	ブレーキランプの点灯			
	ブレーキのきき具合			
	ブレーキパッドの摩耗・ブレーキフルードの量			
ホーン	作動確認			
	配線溶接点、絶縁			
バックミラー	角度、範囲、ねじ締め付け			
ヘッドライト、ウインカーランプ、テールライト	照射位置、角度、配線と絶縁			
メーター	メーター表示、配線			
ボルト、ナット類	締め付け確認			
スロットルコントロール	レバーの作動、戻り具合			
コントローラー	コネクタ接続部の緩み、損傷			
	不足電圧、過電圧保護			
モーター	端蓋、ベアリング、ホール、信号線、モーター配線、モーターケース絶縁			
メイン配線束	損傷、接続部			

良好	✓	交換	×	締付	T	修理	△	分解	○	調整	A	清掃	C	給油	L
----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----	---

定期点検整備項目		18ヶ月	24ヶ月	メモ
		実施日 点検者	実施日 点検者	
前後ホイール	ボルト・ナット類の緩み			
	ホイールの損傷			
ハンドル	ハンドルの操作具合・緩み・がた			
	左右の操舵角度			
	ステアリングシャフトの取付 具合損傷			
	ステアリングシャフトの軸受 部のがた、ストッパーの損傷、 サビ			
フレーム、リヤスイング アーム	各溶接点、ナット締め付け			
フロントフォーク	ボルト、ナット類、ベアリン グ			
サスペンション	サスペンションの作動具合			
	ボルト・ナット類の緩み			
	ホイールの損傷			
バッテリー	ターミナルの締め付け、腐食			
	コネクタ-接続部のがた・損 傷			
	充電機能			
充電器	コネクタ-接続部のがた・損 傷			
	ランプの点灯			
その他 (必要な箇所が認められた場合に記入)				

定期点検整備項目		30ヶ月			36ヶ月			メモ
		実施日 点検者	年	月	日	実施日 点検者	年	
タイヤ	タイヤの亀裂・損傷							
	タイヤの残溝・異常摩耗							
	空気バルブの損傷							
	空気圧の適正							
ブレーキ	ブレーキランプの点灯							
	ブレーキのきき具合							
	ブレーキパッドの摩耗・ブレーキフルードの量							
ホーン	作動確認							
	配線溶接点、絶縁							
バックミラー	角度、範囲、ねじ締め付け							
ヘッドライト、ウインカーランプ、テールライト	照射位置、角度、配線と絶縁							
メーター	メーター表示、配線							
ボルト、ナット類	締め付け確認							
スロットルコントロール	レバーの作動、戻り具合							
コントローラー	コネクタ-接続部の緩み、損傷							
	不足電圧、過電圧保護							
モーター	端蓋、ベアリング、ホール、信号線、モーター配線、モーターケース絶縁							
メイン配線束	損傷、接続部							

良好	✓	交換	×	締付	T	修理	△	分解	○	調整	A	清掃	C	給油	L
----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----	---

定期点検整備項目		30ヶ月			36ヶ月			メモ
		実施日 点検者	年	月	日	実施日 点検者	年	
前後ホイール	ボルト・ナット類の緩み							
	ホイールの損傷							
ハンドル	ハンドルの操作具合・緩み・がた							
	左右の操舵角度							
	ステアリングシャフトの取付具合損傷							
	ステアリングシャフトの軸受部のがた、ストッパーの損傷、サビ							
フレーム、リヤスイングアーム	各溶接点、ナット締め付け							
フロントフォーク	ボルト、ナット類、ベアリング							
サスペンション	サスペンションの作動具合							
	ボルト・ナット類の緩み							
	ホイールの損傷							
バッテリー	ターミナルの締め付け、腐食							
	コネクタ接続部のガタ・損傷							
	充電機能							
充電器	コネクタ接続部のガタ・損傷							
	ランプの点灯							
その他 (必要な箇所が認められた場合に記入)								

保証書

1. 保証内容

株式会社 Tsubame E-time（以下 ツバメ・イータイムといいます）の製品について、保証期間内に設計や製造上の不具合が発生した場合、本保証書に示す期間と条件に従って無償修理いたします。この無償修理を保証修理といいます。保証修理は部品の交換あるいは補修により行います。また、取り外した不具合部品はツバメ・イータイムの所有となります。

2. 保証期間

ア) 保証修理の期間

①保証修理を受けられる期間は次の通りといたします。新車を標識登録した日（または納車日）から1年間保証いたします。ただし、下記を除く。

・消耗部品及び油脂液類 ・別扱いの保証部品

次に示す部品は、この保証書とは別にそれぞれの部品メーカーが定めた保証基準に従って保証されます。お買い上げいただいたツバメ・イータイム取扱店にご相談下さい。

① タイヤ ②アクセサリ用品等

イ) 保証修理の受け方

①保証修理をお受けになる場合は、ツバメ・イータイム 販売店、又は指定サービス工場で実施いたします。指定工場へオートバイをお持ちいただき、本保証書及びメンテナンスノートをご提示のうえ、保証修理をお申し付けください。本証書、及びメンテナンスノートをご提示されない場合は、保証修理をお受けいたしかねます。

ウ) 保証修理の方法

- ①保証修理を行う ツバメ・イータイム販売店又は指定サービス工場が相当と判断をした方法で行います。
- ②保証修理にあたっては、修理内容により時間を要する場合がございます。予めご承知おきいただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

エ) 構内車等の開始日について

①前記2. 保証期間のア) 保証修理の期間中の「新車を標識登録した日から」を「新車を納車した日」と読み替えるものとします。

3. お客様にお守り頂く事項

お車を安全快適にご使用いただくためには、お客様の正しい使用と点検、整備が必要です。次のことを必ず守ってください。守られていない場合は保証修理をお断りすることがあります。

- ①ツバメ・イータイムの取扱説明書に示す取扱い方法に従って正しい使用・お手入れをすること。
- ②日常点検を実施すること。法令および弊社の指定する定期点検整備を実施すること。
- ③メンテナンスノート、取扱説明書にてツバメ・イータイムが指定する定期交換部品、油脂液類を指示どおり交換すること。

- ④ ツバメ・イータイムの指定する点検整備がなされていることが証明できるよう、メンテナンスノートなどの点検整備記録簿を保持すること。

4. 保証しない事項

ア) 次に示す事項は保証修理いたしません。

- ① 通常の使用、あるいは経年変化に伴い発生する現象
 - ・ 消耗部品および油脂類の消耗・劣化等
 - ・ 塗装面、メッキ面の自然退色・劣化等
 - ・ 樹脂部品の自然退色・劣化等
- ② オートバイの機能に影響がないことが一般的に認められている現象
 - ・ 音（ブレーキを作動させたときに発生する機能上問題ない音を含む）・振動・オイルのにじみ（オイルシール部分のオイルのにじみでそれ以上進行しないものを含む）等、機能上影響の無い感覚的な現象。
- ③ 外的要因によるものであり、材料上、又は製造上の不具合によらないもの
 - ・ 走行中の飛び石によりボディへの傷つき、酸性雨等によりボディ塗装面への雨染み、へこみ等
 - ・ 煤煙・薬品・鳥糞・塩害などに起因する不具合等
- ④ ツバメ・イータイム販売店、又は指定サービス工場での整備が行われていない場合
- ⑤ 法令、及びツバメ・イータイムが指定する定期点検整備、日常点検の未実施による不具合
- ⑥ 保守、整備の不備又は間違いに起因する不具合
- ⑦ 取扱説明書に示す取扱い方法及び異なる使用及び弊社が示す仕様の限度（最大積載量、乗車定員など）を超える使用に起因する不具合
- ⑧ 法令に違反する改造及びツバメ・イータイムが認めていない改造（車高の変更・灯火器の減、増設・バッテリー容量の変更など）に起因する不具合
- ⑨ レース・ラリー等による酷使あるいは一般に車両が走行しない場所での走行に起因する不具合。
- ⑩ 純正部品及び指定する油脂類以外の使用に起因する不具合。
- ⑪ 地震・台風・水害などの天災、事故及び火災に起因する不具合。
- ⑫ 二次保証が行われなかった場合
- ⑬ 通常の注意で) 発見、処置できたにもかかわらず、放置したために拡大した不具合

5. 保証修理以外にツバメ・イータイムが本保証書に基づいて次に示す費用は負担いたしません。

- ① 点検・清掃及び法令で定められた定期点検整備の費用。
- ② ツバメ・イータイム指定サービス工場以外での修理費用。
- ③ 車両を使用できなかった事による不便さ及び損失など（電話代、交通費、レンタカー代金、宿泊費、休業補償、営業損失等）

6. 保証の発効

この保証書は、お買い上げの販売店が保証登録票に必要事項を記入、捺印することにより有効となります。

7. 保証の失効

この保証は前記2.の保証期間が満了した時、効力を失うものとします。

8. 保証の適用

この保証書は、日本国内で販売し使用されるお車のみ適用いたします。したがって保証期間内であっても表記のオートバイを海外へ持ち出す場合、その時点で保証は打ち切りになります。

9. 保証書の再発行

保証書を破損、紛失、その他の理由にて、保証書の発行をお受けになったお客様からのお申し出があった場合（二次保証の場合は二次保証の手続きをお受けになったお客様）、に限り有償にて再発行いたします。保証書の発行手続きを行った販売店へお申し出ください。

10. その他

この保証書は、本書に記した期間および条件のもとに無償修理をお約束するものです。従って、保証期間後に発生した不具合の修理は原則として有償になります。

株式会社ツバメ・イータイム

お 客 様 情 報

製品名	
車体番号	
バッテリー S/N	
登録年月日	
名 前	
住 所	〒
販売店名	印



**TSUBAME
E-TIME**